



# 小田小だより

平成27年 6月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel.045(775)3011

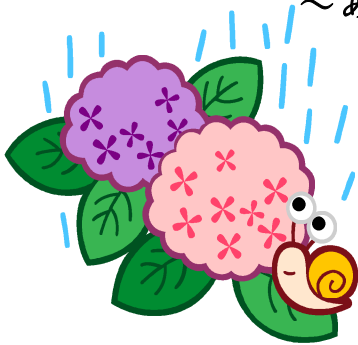
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

## 心を育てる

～ある高校生の姿に思いを寄せながら～

校長 木村 昭雄



6月に入ります。次第に変化する薄墨色の空と雲は、もうすぐ訪れるはずの「梅雨」を予感させます。桜で彩られた春の季節から、新緑の季節。そして輝ける陽光と実りの季節へと、万物が変化していきます。花々の美しさを愛でている間に、季節は実りの前の、気分的にうっとりしいじめじめした時期に入っていきます。そこでその前に、ある新聞の投書欄に寄せられていたエピソードをご紹介します。きっと清々しい気持ちになるに違いありません。

日曜日の朝の下り電車。ぼうず頭の高校生が、大きな荷物を抱えて乗車してきました。たぶん、部活動の試合に向かうところなのでしょう。真っ黒に日焼けした体格のいい高校生です。電車は空いていますが、空いている席はありません。高校生は、他の乗客の迷惑にならないように、そっと荷物を足もとに置くと、吊革につかまり単語帳のようなものに目を落とします。電車がいくつかの駅を通り過ぎると、高校生の斜め前の席が空きました。そのことに気付いた高校生は、車両全体をゆっくり見回し、立っている乗客が自分のほかにいないことを確かめると、誰にするともなく会釈をし、静かにその空いた席に腰を下ろしたのです。

投稿記事を読んだ私が、思わず家族にこの記事を見せたくらいですから、その場に居合わせた投稿者は、どんなにか清々しい思いでこの高校生を見つめていたことでしょうか！“自分のような若者が座っていいものか”と躊躇しながら辺りを見回し、頭を下げて座席に着く高校生の姿はほんとうに立派ですし、この高校生の行動に心をふるわせる投稿者もまたすばらしい人なのだろうと思います。そして、私は、この高校生をこのような心の持ち主に育て上げたのは、一体何なのだろうと考えずにはいられませんでした。

折しもある小児科医の先生が、「心の教育」について、次のように書いている本に出会いました。

今、求められている心の教育とは何でしょう。第一に、心の教育を必要としているのは、子どもを取り巻く大人であって、決して子ども自身ではないことを確認すべきです。子どもが健やかに育つためには、その子が“家はほっとくつろげる所”“学校は楽しく安心して過ごせる所”と実感し、自分はいつみんなから愛情を注がれ、大切に見守られているという実感が必要なのです。家庭や学校、そして、社会全体でつくり上げる子どもの養育環境こそが、心の教育の核心だと思えます。

“子どもの問題は、私たち大人の問題である”という認識は、とても重要なことだと思います。保護者の皆様と地域の皆様と学校とが子どもを取り巻く様々な問題や課題を共有し、子どものよりよい成長を願って、お互いに手を携えて取り組みを進めていく・・・そんな関係をこれからも大切にしていきたいと願っているところです。

今月も小田小学校の教育活動に、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

